



荒 貴賀 議員
(日本共産党
幕別町議員団)



幕別町の平成29年3月末の障がい者手帳保持者は、1732人で町の人口の6・4%になっている。

第5期幕別町障がい福祉計画では、施策の推進を目的とした3年間の計画が定められ、2020年度が最終年となることから、進捗状況について次の点を伺う。

(1)障がいへの理解、差別解消の取組状況は。

(2)障がい者スポーツの取組状況は。

(3)ユニバーサルデザインを取り入れた生活環境の整備について

①公共施設のバリアフリー化と洋式・多目的トイレの整備状況は。

②公共施設の点字ブロック整備は。

(4)町の施策に、当事者や関係者の声を反映させる仕組みづくりは。

(5)防災、安全対策の取組として、障がい者の防災に関する手引きを作成する考えは。

(6)障がいのある人やその家族の高齢化に伴う、いわゆる「親なき後」の支援は大きな課題になっている。町としての取組は。

問 障がい者にやさしい町づくりを

答 自立、社会参加、共生を基本理念とし、各種施策や事業を実施している

町長 (1)取組の一例として、障

がい者の就労の場となっている役場庁舎内の「ぴよすく」、中札内高等養護学校幕別分校の実習訓練の場となっている札内コミュニティプラザ内の「カフェノン」は、店頭販売や移動販売を通じて、多くの町民の方に親しみを持たれる存在となっているとともに、障がいに対する理解を深めていただく大切な場となっている。

(2)地域活動支援センターが毎年開催している障がい者スポーツ交流会には、地域の方々を含め、多くの障がいのある方々に参加をいただき、障がい者の方々に体を動かす楽しさややすらしさを感じてもらうことで、障がい者自身の健康の増進や障がい者と健常者との分け隔てない交流による社会参画の一助となっている。

(3)①住民生活に関わる主な99の公共施設のうち、段差のない施設とスロープ・手すりを設置している施設をあわせると66施設、整備率は66・7%。洋式トイレは99施設

中、97施設で設置され、洋式、和式あわせた全トイレ数822基のうち洋式トイレは611基、率としては74・3%、車いす対応の多目的トイレは39施設で、設置率は39・4%となる。

また公園では、トイレが設置されている53公園のうち、27公園で洋式トイレが設置され、洋式、和式あわせた全トイレ数120基のうち、洋式トイレは69基、率としては57・5%、車いす対応の多目的トイレは19公園で、設置率は35・8%になる。

②公共施設の点字ブロックは、役場庁舎、保健福祉センター、ふれあいあセンター福寿、百年記念ホール、の4か所で整備され、道路では、幕別地域の平和通3か所のほか、札内地域で4か所、忠類地域で1か所、信号のある横断歩道に整備されている。

(4)町の施策は障がい福祉計画に基づき実施しており、本計画の策定に当たっては、当事者や障がい者団体、福祉、医療および教育分野

の関係者で構成する障害者福祉計画策定委員会において、当事者や一般の方へのアンケート調査および施策に対する意見を基礎資料とし、更には自立支援協議会の意見やパブリックコメントなど、当事者や関係者の意見を反映し、計画を策定している。

(5)手引作成の要否を含め、先進事例の研究に努めたい。

(6)本町の障がい福祉計画では、地域生活支援拠点を令和2年度末までに整備することを目標としている。整備にあたって課題となるコーディネート員の配置は、専門性の高い相談支援専門員を配置している基幹相談支援センターへの委託を基本とし、整備手法は、町単独あるいは広域的な整備が考えられるが、障害支援区分認定審査会の共同設置など、東部十勝でのこれまでの共同の取組を生かし、まずは東部4町での協議を優先的に進めたい。



車いすラグビー日本選手権大会
予選リーグ (札内スポセン:2019年7月)